

令和5年度

第2回 松本市健康づくり推進協議会 議事録概要

開催日時 令和6年3月4日(月)午後1時30分～3時00分  
開催場所 Mウイング4-4会議室  
出席委員(敬称略) 伊澤 淳 (信州大学)  
廣田 直子 (松本大学)  
小林 正典 (松本市医師会)  
大久保 達人 (松本市歯科医師会)  
本保 武敏 (松本薬剤師会)  
岩間 英明 (松本大学)  
飯澤 裕美 (長野県栄養士会中信支部)  
赤羽 みち子 (松本市食生活改善推進協議会)  
松下 菜南 (松本市校長会保健教育研究会 養護教諭部会)  
事務局 健康づくり課職員

1 開会(司会 健康づくり課 田中課長)

2 挨拶(塚田保健所長・伊澤会長)

3 報告事項

(1)健康寿命の延伸について(説明 田中課長)(会議資料)

<質疑意見等>

委員:健康寿命の定義が、要介護2以下ということは、要介護1は健康ということになるのでしょうか。

事務局:その通りです。国の定義ではそのようになっております。

委員:要介護1の定義自体が、認知症と、ここ半年後に状況悪化する危険性が高いという要支援の境目というところで介護認定審査会を実施していますので、確認させていただきました。

事務局:寝たきりに近い状況の方が不健康という定義になっています。

ただ国でも健康寿命をどう算定するかについて議論がある中で、客観的に取れるデータが、さしあたっては要介護データしかない中での、国の定義となっております。

(2)令和5年度の主な取り組みについて(事務局 各担当説明)(会議資料)

<質疑意見等>

委員:知って肝炎プロジェクトですが、今後はどのようになるのでしょうか?

事務局:来年度以降については、厚労省の積極的広報地域の指定は終了するため、今年度のような取り組みはできませんが、啓発等可能な範囲で実施します。

委員：啓発活動は非常に意味はあると思いますが、おそらく1人でもHCV抗体陽性の方が出たら驚きです。検査をして陽性の方が、1人もいないからやる意味がないということではなく、検査の必要性を周知啓発することは非常に意味があることだと思います。

委員：受動喫煙防止対策の取り組みですが、松本城公園等の公的な場所での喫煙所設置については、①喫煙者を禁煙に導いて、喫煙者の健康を守ろうという視点に欠けている。②喫煙所を「正しく」使用する喫煙者ばかりとは限らず、受動喫煙(2次喫煙)の防止が完全にされているか、保証の限りではない。③喫煙所を設置しても、喫煙したもののからの残留喫煙(3次喫煙)は防げない。ということを指摘させていただきます。

行政が中途半端に喫煙する場所を設けること自体が「実際の禁煙支援の場」では弊害の一つになると感じています。

コロナウイルスワクチンに関してですが、国の方針が決まらないと何とも言えないとは思いますが、今までファイザー社のワクチンは、1本で6人の接種ができました。今後インフルエンザのように各診療所でやるという話になると、とても大変なことだと思います。また新しい情報がでたら教えてください。

委員：薬剤師会は、小学生に向けて薬物乱用防止の出前講座を学校に出向いて実施しています。

また、地域の薬局としての取り組みについてもいろいろ考えていますが、連携できることがあれば協力します。

委員：体や運動の観点から申しあげますと、事務局からはフレイル対策についてお話がありました。やはり子供の頃からの運動習慣が青年期あるいは将来に向けて非常に影響する大切なことになります。

先日発表されました県の子供の体力等の調査によると、運動習慣の二極化がさらに進んでいる状況ははっきりしています。

子供たちに対してどのような指導を今後していくのかは、非常に重要です。このことは、この場というよりは、学校教育委員会全体との関わりの中での話になるかもしれませんが、そういった将来を見通した運動等の指針というものが、必要になっていると考えています。

タバコの問題について、小・中・高校生の保健の授業の中で取り上げられていますが、今回小学校の高学年向けの喫煙防止動画の作成という説明がありましたので、今後どのように展開していくのか、また中・高校生についても考えてほしいと思います。

食育に関しては、非常に面白い取り組みをしていると思いますが、幼稚園・保育園・小・中学校の給食の中でもさらに取り組みを考えていければと思います。

例えば大豆大作戦があるのなら給食の牛乳の代わりに豆乳を使うのもいいと思います。

委員：食育についてですが日頃より食改では、減塩を重点に活動していますし、今後と

も、取り組んでいきたいと思っております。

委員：学校ではHIV性感染症予防講座を活用したり、喫煙防止の動画の意見のまとめなどをさせていただきました。受動喫煙防止の動画は小学生が見てもわかりやすい目で見て理解できるような動画になっていました。

食生活について、小学生は野菜が苦手とか、魚が苦手という場面もありますが、学校内の指導のみだと、力不足なので他の機関の力もお借りしたいと思っております。

委員：健康づくりに関する事業を総合的に実践されていることがわかりました。

栄養士会の方でも、今までコロナでなかなか食べものを中心とした活動ができなかったため、活動が落ち込み、内容も制限されましたが、今年から一般の方にアピールする活動を再開しました。

例えばスーパーマーケットの一角で、フレイル予防・糖尿病の重症化予防・PRをさせていただきました。

フレイル予防も、最近では、当事者の高齢の方もしっかり食べないといけないということがだんだん周知されてきていると感じています。

中信栄養士会では、昨年松本保健所から災害時の炊き出しメニューを考えて欲しいという依頼を受け、メニューを作成しました。県の栄養士会のホームページに載せていますのでまた見ていただければと思います。

一品で野菜とタンパク質をバランスよく取れるというような組み合わせを考えました。作成してみて普通の食事でも、最低ラインの栄養のバランスが整うメニューとして活用できると思いました。

また今後は、災害対策を担っている課の方に提案してみようと思っております。災害時を想定した炊き出しの訓練でも活動ができればと考えています。

委員：口腔医療に関しましていくつかございますけれども2,3お話しします。

虫歯保有率は、1歳半健診、3歳児健診等の結果は、目標値からいたしますとまずまずですが、更なる向上を目指して糖分の摂取ですとか、あるいは歯磨き指導管理を推進して行きたいと考えています。

報告の中にもありましたが、妊娠前のいわゆるプレコンセプションケアの視点に立った口腔管理にも力を入れて行きたいと思っております。

フレイルに関してですが、医師会・歯科医師会ともにサポート研修医登録が少ないので、来年度も引き続き研修制度の充実をお願いしたいと思っております。

口腔がん検診については、令和元年度から、会員の診療所で実施させていただいています。令和5年度も検診期間を拡充して2月の1ヶ月間を検診推進月間と定め、口腔がん検診事業を実施いたしました。まだ結果が出てきておりませんので詳細なご報告をこの場ではできませんが、年々受診者数の向上が見られています。

口腔がん検診は全国的に実施している自治体はまだまだ少ないのが現状です。口腔がんは、年間1,000人から1,200人が罹患するという報告もありまして、60代

前後が最も罹患率が高いという報告があります。

臓器別では発生率の低い方ですが、致死率も高く、術後のQOL低下が著しいがんです。

5年にわたる歯科医師会の検診活動に中核市としてご理解を頂き、次年度からのサポート体制も整いつつあると伺っております。今後も市民への啓発活動も含め信大口腔外科と協働して検診事業を推進して行きたいと考えています。

委員： 給食のことですが、先ほど他の委員からも大豆を取り上げるならもっと給食を活用したほうが良いといったお話もありましたが、小学生が自宅に帰って給食のことについて話すということもとても大切な食育につながるの、そういった取り組みを進めていただければと思います。

情報発信をととても熱心に行っていると思います。レシピの方も拝見しました。しかしながら、見て欲しい人が見てくれないのが一番の課題だと思いますので、食育に関係のないような部署の情報配信ツールなども活用し、情報にアクセスしてくれない人にどう届けるかということを検討し、より効果的に配信していただけたらと思います。

食育に関係のないところの部署との連携も大切だと思います。

赤ちゃんお迎え準備講座が、キャンセル待ちが発生するほど人気で、父親を含めた育児支援の場になっているという報告がありましたが、これはすごくいいと思いました。ぜひ続けてください。

今回事務局から、ライフステージに沿った取り組みを説明いただきました。市民の皆さんが、ご自身のライフステージに合わせて健康リスクの回避に繋がれるような取り組みを考えていけるように、事業の推進をお願いします。

(3)令和6年度の主な取り組み（説明 事務局 田中課長 会議資料）

4 閉会

次回 令和6年7月・3月 予定